



漫 録



道 草 を た べ る

池 本 泰 兒

雪にひかれて

私は此の二年の間東北の方へばかり何度も行つた。東北の雪は吹雪になつて寧ろすごい。東京は今年の冬は餘り雪が降らなかつた。暖い冬だと誰れでも云つてゐた。

一月二十二日は日曜日だ。其の前夜私は書齋の窓ぎわで寝て居たら、外でサラサラと細いものが硝子にあたる。時々バサバラと木の葉から地面にか落ちる音がする。あすは雪かなと思つてゐた。起きて見たら大變な雪だ。十五糎近くも積もつてゐる。

こんな日に東北へでも旅をすれ大變な雪だらう。汽車も不通になつたり雪のなかに埋まつたりするだらう。そんな目に遭ふのも面白いには違ひないが、東京で此の位降るんだつたら日本中降つてゐるかも知れない。一つ久し振りで關西の雪でも見やうかな。東京驛發午前九時の『燕』に乗れば明るいうちに神戸に着く。八時前に家を出た。

今日は日曜日なると、雪が降るので大概の家は未だ戸を開けてゐない。降り積んだ雪を踏みながら通りへ出る。あたり前に値切つて圓タクに乗る。自動車はスリップしながら走る。もう除雪人夫が出てゐる。随分澤山に出てゐる。

貨物自動車に集めた雪を積んで運んでゐる。此の一雪で二三萬圓の除雪費が消えるだらう。東京市も市域擴張で之れまでより澤山の除雪費を要することになつたであらう。

街の並木も美しい。銀の花だ。並木も春は新緑、夏は一杯に繁り、秋は紅葉するし冬は銀に飾られる。相當に體を整へて來た東京市の街路樹はほんとうに美しい。殊に東京驛前の並木は殊の他美しかった。

寒い雪の日交通整理で自動車が暫く停車するといさ進めになつて空廻りして一寸の間スタートの出来ないのも面白いことに思つた。又舗装した坂を昇る自動車はスライドしながら蛇行して走る。之れには滑り止めの舗装も效用しない。圓タクはチェンの用意が無いのだ。又無くても東京市では



國府津驛構内の雪

間に合ふだらう。子供が面白がつて街で雪遊びをしてゐるので、ブレイキの効がないこんな日は自動車も危ない様な気がする。

吹雪が東京驛のホームに煙の様に一杯に舞ひ込んで來る。汽車は正しく午前九時東京驛を出る。汽車のなかは暖かい。雪を見乍ら走る。然しどの硝子も曇もつて全くすり硝子の部屋に居る様だから自分の席の處の硝子をふいて其の穴から外を望める。眞白と黒との東京も美しいと思ふ。六郷川を渡る。線路の上にも除雪人夫が五六人宛かたまつて働いてゐる。ポイントの附近の雪を除けてゐるのだ。線路は軌條の頭だけを出してゐる。横濱に着いた。

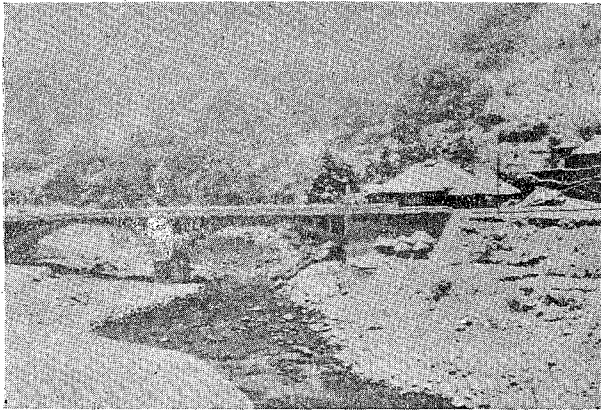
横濱市の街路でも除雪人夫の働いてゐるのが澤山に見える。だが東京の様に直ぐに貨物自動車で雪を運ばないで街

渠の處に押し寄せるだけだ。交通量が東京程でなければ夫れもいゝだらう。戸塚町の踏切から國道を見たら降つた儘だ。もう一面に眞白である。未だ粉雪が降つてゐる。國府津を過ぎる。雪の量は東京と變りはない様だ。

汽車は箱根の外を廻り初める。雪は相當深くなつて來た様に見える。

神奈川縣と靜岡縣の境の府縣道厚木御殿場線の早川に架した二連鐵筋混凝土拱橋が見える。之れは竣功して私は初めて見るものだ。汽車から兩縣界の判るのは汽車の窓から見える早川の石積水制の真中に大きな石柱が境界標として建つてゐるからだ。

此の石柱は 陛下が此處を通られて兩縣界は何の邊かと御下間があつてからだと聞かされたことがある。もう此の邊へ來ると雪はレールの天端一杯に來てゐる。



神奈川縣靜岡縣界に於ける厚木御殿場線の橋梁

附近は殆んど黒い處が無いといつてもいゝ程だ。御殿場を過ぎる。子供等が其のホームでスキーをやつてゐた。

御殿場街道の杉並木も皆雪だるまの様に雪を載せてゐる。汽車は此の邊から降りになる。次第に雪の光が失せて見える。あつあつと思つて見てゐるうちに雪は消えて來る。とうとう三島を通り沼津を通る頃になるともうすっかり雪はない。雨は尙降つてゐる。

此の邊に來ると何と暖かさうなことだ。景色はもうすっかり春雨だ。稻を刈つた跡の田も眞青に草が生えてゐる。大根白菜等も青々と生えてゐる。麥も青々としてゐる。此の雨に生き返つたと云ひたげである。密柑が黄金色

に緑の繁げつたなかになつてゐる。美しい。久しくこんな景色は見なかつたことだ。東北ではもう五月の氣候の様に

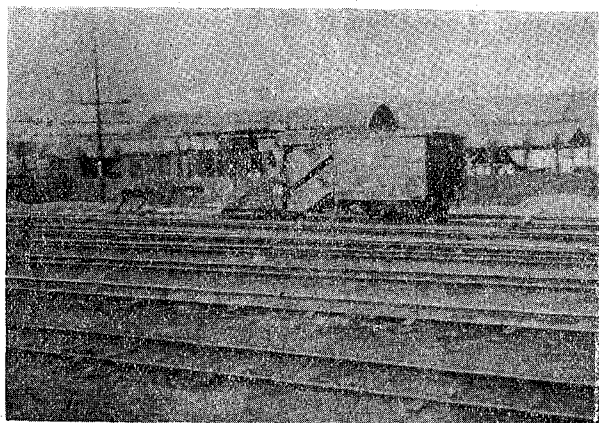
見える。傘をさして通る人達ものんびりしてゐる。ほんとうに東京を出て二時間の旅だ。今朝の吹雪の感じはもう全くない。然し大垣、關原あたりへ行けば未だ深い雪もあるだらう。もう

構造物を、燕の最大速度で走る邊りの此處では、何として私の寫真機には寫りさうでないから止めた。雨といへば

七八年も前の冬のことだが、私は東京から下關行の急行に乗つたことがあつた。其の汽車が雪で關原の處で動けなくなつて暫く停車したことがあつた。下關に着いた時に二時間足らず延着した。お蔭で急行料を拂ひ戻して貰つたことがある。今日も其のあたりは雪があるに違ひない。

由比が濱の處に國直轄の國道工事があつた。鐵道の海側に道路を附け替へてゐる。波除け護岸を造つてゐる。

今日は雨が降つてゐるので工事は休みの様だ。寫眞を撮らうと工夫して見たが、此の雨の中で、線路に密着してゐる



大垣驛内の除雪車

秋田邊だと今日位の雨はおろかどんなドシャ降りでも工事は休まない。人夫は皆出て来てせつせと働いてゐる。一度私の行つた時など私なら三年に一度位しか會はない様な豪雨だつたが、夫れでもかつばを着て土など運んでゐた。驚いて聞いて見たら此の邊は雨はちつとも苦にしません。又雨の日休んだら仕事する日は殆んど無いでせう。人夫も平氣で來るので若し工事を休んだらとても落膽して歸へります。此の邊の人の最も恐れるのは吹雪で其の日は休みます。實際酷い吹雪では歩けなくなるんですからねとのことだつた。

由比の國道工事も汽車から見てさう早い出来でない様に思はれた。三月迄に残りを完了するとすれば相當急がなければなるまい。東北の工事だけしか見てゐない私は、今此の出来高歩合で、三月までに済むものが實の處見當がつかない。

縣でやつてゐる興津川の橋梁は鐵筋混凝土ゲルバー式のもので約七分程の工程だ。上部構造が約半分出来てゐた。立派な出来派への様に見えた。此の方が立派な割に此の橋の少し東京寄りに單桁鐵筋混凝土の相當長い橋梁が出来てゐるが、構造にしても出来上りにしても少し粗末過ぎる様に見えた。私は國道であるからには少くとも相當區間は、同じ様なウエイトを持たせるといふ考へ方で、統一的に改修したいと思ふ。こんな織はぎの改良の仕方はおかしい。

又私は何時も考へて居ることが、道路の工事をする場合、區切られた一改修區間を施工するのに、道路の其の區間は長く續いた路線の一部であるといふことを考へないかの如く、短い其の區間に、改修者の特別の趣味を出して

居るものをよく見る。之れも箱根だとか櫻島だとか特別の背景を持つて居る處に、夫れに適合した地方色が適當に考察された趣味を持たせるのはいゝと思ふのであるが、中には其の風景に全く關係なく、唯施工者の趣味ばかりで異様な感じを受ける構造物を見るのは、もう少し考へて貰いたい様な氣がする。

例へば、工事に用ひる石材の材料にしても、並木の選び方にしても又石垣の積み方、駒止の構造、橋梁の欄干等にも感んずることである。之れ等には施工者の趣味を盛らうとすれば盛ることの出来るものであるが、施工者の趣味ばかりでなく通行者の趣味をも考へなければならぬ。又通行者にとつて見れば、長い路線其のものが一つの構造物であるので、短い區間の工事に特殊の趣味のものを見る時にはちよつと變な氣がするものだ。

此の點になると鐵道工事は或一部分を見ると全く趣味のない工事の如く思はれるが全體として見る時、其處に力強い統一のとれた美しさを感じる。路線としての美しさは私

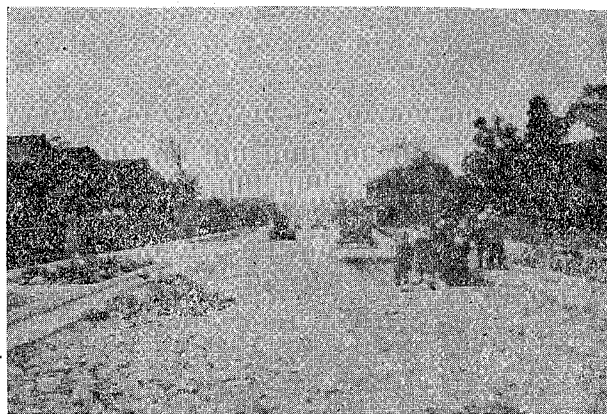
は現在の繼ぎはぎの道路工事よりも鐵道工事の方が優れてゐると思ふ。

元より道路工事の方は、私も多少の趣味は出してゐると思つてゐる。景色に應じ背影に應じ、或は來歴に依つて夫れに適當なる修練せられた趣味を出すことは望ましいことだと思ふ。然し路線として全體的に統一のとれたものであることをも要する。趣味を出すにしても充分修練されたものでなければならぬ。木に竹を繼いだ様な殊更な意匠を爲すことは出来るなら止めたいと思ふ。

徳川時代に爲された松並木、日本の端から端まで同じ様に植えられて

ゐる。そうして其の松並木が眞に日本の道路と云ふことを現はしてゐる。日本中に松を植えたことを私は單純な心柄

だと思ふことは出来ない。此の簡單の趣味のうちに私は頭の降る程の修練された心を見る。



佐賀國の道鋪裝基礎工事

今日の東京市及び其の郊外地の街路樹の不統一さ。あれが總體的に觀られた配置であると誰れが云ふことが出来るやう。夫々一區間一區間を受け持つてた人の悪く云へば氣まぐれであると考えられぬであらうか。街路樹は單一の形でなければならぬといはれてゐる。だから木の種類を變へる事に依つて變化を求めやうとする氣持かも知れない。然し無暗に木の種類を變へたからとて美しいものになる筈はない。夫れには夫れだけの修練された趣味を要するものだ。

木の植え方と云へば、明治神宮と其の外苑のものは道路のものとは全く異つてゐるが其の植え方及び一つの枝にも

ほんとうに整とのつた美しさを見ることが出来る。街路樹を植えるにもあれだけの趣味は欲しいと何時も考へることだ。話が随分脇道にそれた。汽車はひたすらに進んでゐる。

清水と静岡との間に改修された道が見える。汽車からだ和小砂利敷の美しい路面の様だが、實際は随分維持に苦心してゐるのだが自動車に酷く荒らされて十二間の幅を一車線だけ、いゝ處をいゝ處をと自動車はよつて通るのでさうだ。こんな幹線道路の改修新路線を舗装しないで置くなぞうそだ。

静岡を正しく十二時に發車する。東京と静岡間はきつちりと三時間の

行程である。安倍川橋が見える。大井川橋が見える。安倍川橋は黒に見え大井川橋は白に見える。雪は全くない。唯

山に白く見えるだけだ。雨もやんだ。

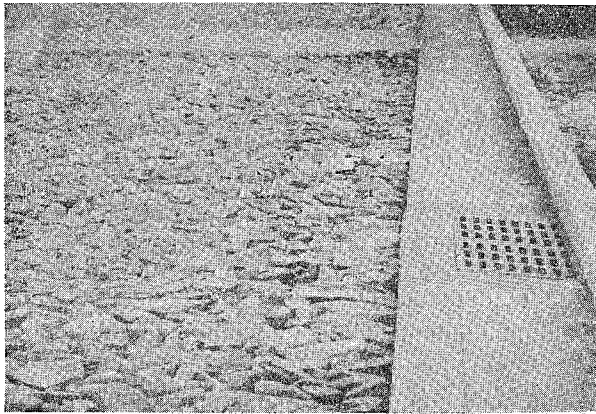
天瀧川橋に差しかゝる。其の國道橋も全部架け終つてゐる。昨年五月に此處を通つた時は下部

構造だけだったが、今は架け終つてゐる。未だペンキを塗つてないから紅砂丹で真赤だ。

佐賀國道車道舗装基礎

濱名湖橋だ。第二號橋と第三號橋との間の埋立地は、此の邊の海の細砂だから風で飛ぶのを防ぐためだらう。粗朶と麥藁とを二、三米間隔の列に一面に埋め込んでいる。別莊地として埋め立てたのだが之では麥畑だ。國道は其の中程を走つてゐるがこの細砂の上に赤土を置いて砂利を敷いた様だが、今では砂利は沈んで赤土の道だ。

豊橋を過ぎる。雨は何時降つたかといひ顔にすっかり乾いてゐる。救農工事らしい道路工事を澤山の入夫が盛んに



やつてゐるのが見える。

岡崎と名古屋との中程の處で、鐵道と併行して立派な道

路工事をやつてゐた。府縣道工事だ

らう。名古屋へ着くころから日が照

り出した。名古屋を出て枇杷島橋か

ら清洲の間の國道改良は國庫補助を

受けてもう四五年程前に改修の計畫

が樹つてゐたものだが今見ると丁度

工事が初まつてゐた。新しい見張小

屋も出来てゐた。暗渠の様な構造物

にもかゝつてゐた。土工も二割方出

來てゐる様だつた。もう直き之れも

出來るだらう。此の邊の國道は乾い

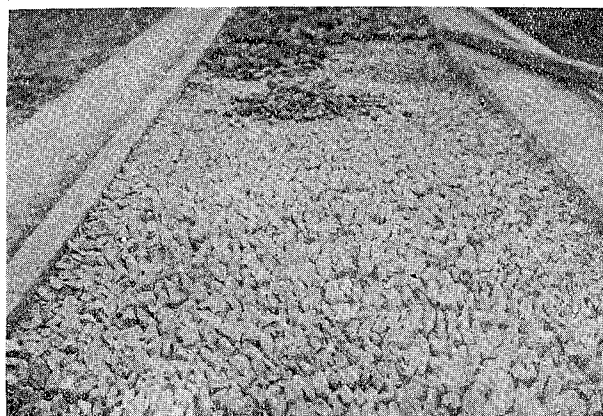
て自動車は砂塵を揚げて走つてゐ

る。木曾川を渡る。笠松の處に國直

轄の國道工事がある筈だが見えなかつた。岐阜と大垣の間

の國道を『ぎえん』國道と云つて縣で改修してゐると聞

てゐたが之れも汽車から見えない。ぎえんのえんは大垣の
垣で之れをえんと讀むのださうだ。苦しい名前をつけたも



佐賀國道工事歩道鋪裝基礎

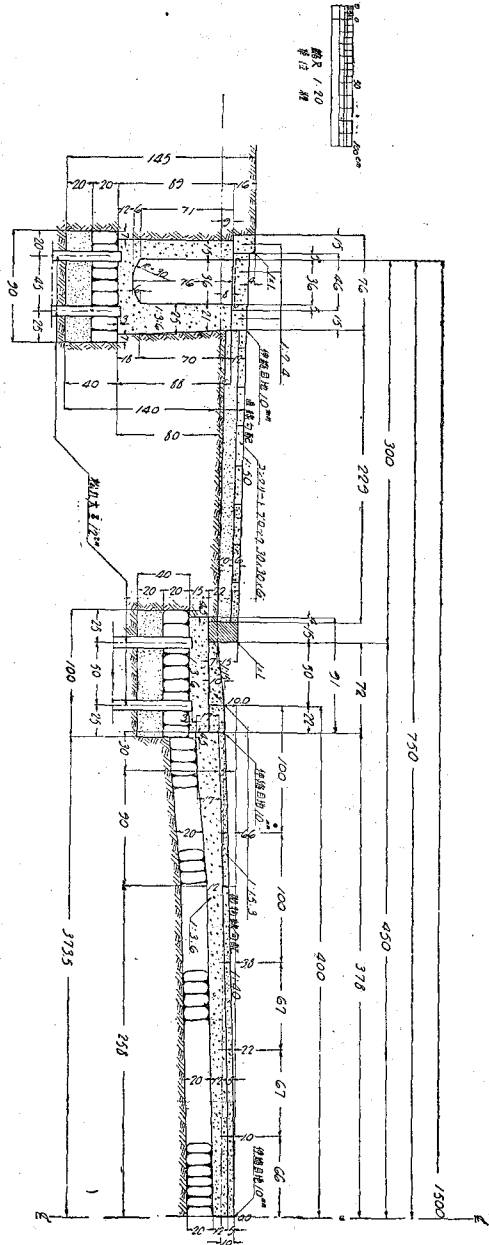
のだ。汽車から揖斐川に架しつゝある
橋梁が見えた。二連半だけ架設せられ
てゐる。之れには地方鐵道が併用する
計畫であつた處が、鐵道側でやめたか
ら、橋梁は半分の幅だけを當分道路に
つかつて置くさうだ。

大垣驛には所在なさうに除雪車が
置いてあつた。この邊も雪は無いのか
なと思つてゐたらそれでも柏原近くは
古い雪が斑に畑や屋根やに残つてゐ
た。吹雪の壯觀を望んでゐたのに之れ
では仕方がない。尤も雪を見に關西へ
出掛ける者も無いかも知れない。

名古屋から乗つた人が此處で『えらい雪だなあ』と感心
してゐた。尤も伊吹山は眞白だ。又近江長岡と云ふ驛には

スキーの歸へりらしい人がホームに一杯だつた。今は丁度
 午后三時四十分である。此の邊でも何處かスキーの出来る
 處があるのだらう。此の頃では土佐でも熊本でもスキーを

目總て純白の厚い雪の上で滑る壯快さは味へまる。
 米原を過ぎると琵琶湖の端が見える。彦根城趾を見なが
 ら進む頃には、次第に夕闇になつて来る。曇つてゐるから



國 規 定 懸 橋 道 國 内 市 賀 佐

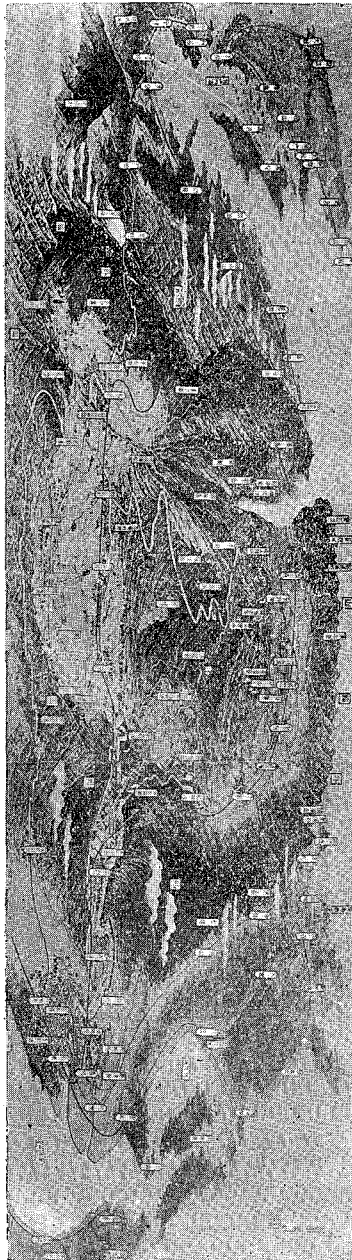
やる人があるさうだ。尤も夫れは國境近くの山へ行くのだ
 が、斑ら雪の上を探して滑べるんだらうが北陸、東北の萬

一層日暮が早い。瀬田橋を過ぎる。瀬田橋は大正十二三年
 の頃I型桁橋に架換へられたのだが橋面は混凝土床版の上

に木會檜の板を並べてある。古くより瀬田の唐橋といはれて、カラコロと音を出して渡るものだといつてやつたことだ。これが近來の自動車交通ですつかり磨損して節だけがぼこぼこに出てゐる。然かも板と板との繼ぎがゆるんでし

年足らずで、張り換へる用意が要る。夫れかと云つて瀬田の唐橋の名を捨てさせることも心残りだらう。

大津を過ぎ逢阪山を抜けた處で國直轄の國道工事がある。御陵あたりでは鋪装工事をしてゐた。京都だ。雪は無



(トヨタトラフがのい田の山中) 三 築 画 大 國 分 京 圖

まつて自動車が通ると板が一枚一枚動いてバタバタバタと物すごい音がする。之れでは瀬田のバタバタだ。其の修繕はどうするだらう。又木會檜で張り換へるとすれば永久に十

ある。一昨年の二月大阪附近は大雪で丁度夫れに私は出會つたので此度も夫れを豫期して來たのだがとうとう無駄だ

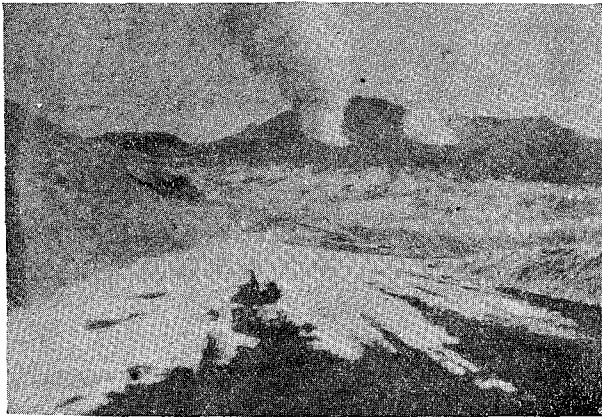
つた。

之れから私は未だ鹿兒島まで行かなければならない。九州にも雪はあるだらう。夫れを樂しみに旅を續ける。

土の支持力

私の中學校五年生の時に一週に一時間だけ『法制經濟』と云ふ時間があつた。其の時間に私は何を習つたものか今ではもうすつかり忘れてゐる。忘れてゐると云ふよりも習つてゐる其の時にさへも何のことか全く判らなかつた様な氣がする。

夫れでも唯一つ覺えてゐることは、土地の價値とか云つて、土地は牧畜することが出来る。植物を生長させることが出来る。又どんな重い物でも支へることが出来るから家屋等を建て



阿蘇山イラドアイウエ

ることが出来るると云ふ様なことを云はれた。此の土がどんな重い物でも支へることが出来るると云ふことが土地の値打であると云ふことを聞かされた時に、當然過ぎることを云ふものだとい齊に笑ひこけたことだつた。土が重量物を支へることが出来ることに當時の私共は全く何等の疑義を持つて居なかつた。疑義を持たなかつただけに夫れが價値のあることと聞かされた時に笑つたのである。

然し其の後私が土木に關係する様になつてからは、土の支持力が意外に少ないことを知つて實際驚いた。夫れも學校で數學的に支持力の大きさを習ひ、基礎工事の工法を習つて居る間は未だびつたりと實際の土と一緒に考へることは出来なかつたが、實地の工事を見るに及んで、初めて土の支持力と云ふ

ものの割合に小さいものであることに氣が着いたのである。甚だ迂闊なことでもある。

今佐賀市内に國直轄で國道工事をやつてゐる。街路であつて混凝土舗装をするのである。私は國道改良に關係してゐるから、其處の工法など充分知つて居なければならぬ筈である。處が今度初めて佐賀市へ行つて、其の工事に踏みこんだ時に、恐ろしく土の支持力に用意された工法を見て、暫く物も云へない程驚いた。ほんとのことを云へば、動悸が激しくなるのを感じた程だ。

路面基礎には車道には大きな割石をぎつしりとテルホード式に敷き並べてゐる。其の上には十七糎厚の混凝土舗装をすると云ふのだ。歩道には混凝土塊を舗設すると云ふのに矢張り多少



小さいが割石を堅にぎしぎしと並べてある。之れだけを見た時には實際ハツトした。何んでこんな金を捨てる様なことをするのだらうと思つた。歩いて行く程に其の敷き並べた割石の上を輾壓してゐた。處が輾壓する程に下の泥が一杯に表面まで昇つて來てゐる。夫れを亦澤山の人夫で昇つて來た泥を堀り出してゐる。此の頃次第に地盤が悪いのだなと氣がついて來た。もつと歩いて見る。街渠にもU型の側溝にも其の基礎に二米餘の松杭を二本宛一米置に打つてゐる。之れも驚いたことだ。杭を打つてゐるのを見るとすぶすぶと入つてゐる。こんなことで此の杭は何の働になるだらうなどと考へて見た。こ

阿蘇山 下 川 橋 本

んな工事を見るのは實際私としては初めてなのだから、之れがいゝのか悪いのか全く判断がつかかなかつた。

仕方がないから先づ佐賀附近の地盤の話を開いて見た。

此の邊は不知火の海の潟地なのだ。地表の直ぐ下は全く

水の様な泥である。附近の工事も

構造物を造る時に基礎杭を打つが、

打ち終つた時に重しを取ると浮きあ

がつて抜けてしまふので暫く足で踏

んでおさへて居るさうだ。さうする

と浮かなくなるので其の上へ構造物

を造るとのことである。又海岸に於

ては不知火の海を涵拓して耕地にし

てゐるが其の堤防の海側は石垣ださ

うだ。其の積み方は練積みだが先づ

石垣の基礎になる處に厚二十糎位に

砂を敷いて其の上に粗朶を敷く。そ

して其の上に石を並べ初めるのであ

る。二三段積んでは石垣の前の土を掘つて石垣の裏の埋土

にする。此の土は泥だから暫く放置して固まるのを待つて

更に其の上に石垣を積み上げる。堤防に掘りとつた泥穴は一度の満潮ですつかり元の儘に埋つて仕舞ふと云ふ。石垣

の方は積み上げるに従つて沈下する。

三石も四石も沈下する。そして所定の

高さに堤防が出来上つた時には夫れに

釣り合ふだけ石垣も沈下してゐるのだ

といふ。尙日が經つに従つて一潮毎に

其の堤防の前の泥の面が高くなつて其

の涵拓地の排水が出来なくなるので更

に其の沖に堤防を造つて涵拓地にする

さうだ。だから此の邊の陸地には幾重

も幾重にも堤防が出来てゐると云ふ。

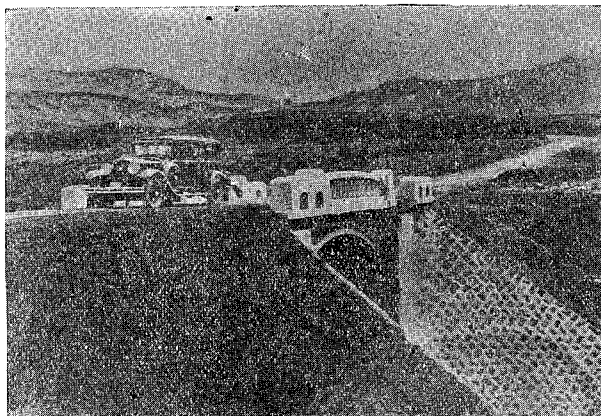
こんな地盤の處に何故佐賀市が發達

したかを研究して見たら面白いだらう

とも思ふ。又よく家が建つてゐること

だとも思はれる。聞いた事だが此の地方では大風が吹くと

倒れる家はあるさうだ。此の邊の家は、道路を馬力だの自



阿蘇山イラドイラブエウイ

動車だのが通るとひどく揺れる。又私は停車場前迄行つて見たが汽車がホームに入つて來て十分程経つた後、其の邊がふわりふわりと大揺れに揺れた。

佐賀市街圖を見ても道路の面積と水路の面積とはどちらが大きいかわからない程だ。

之れだけの知識を得て再び此の道路工事を見る。舗装を混凝土にすることは當を得てゐると考へられる。

此の場合其の厚さを増すこと及び鐵筋を入れて見ることも考へられる。

だが、此處で用いてゐる割石は四五里先の海岸から幾らでも得られて、夫れを船で直接に工事現場まで運搬し得るので極安く得られる。立米二

圓二十錢だと云つてゐた。夫れで此の舗装一平米當りは四圓二十錢程になつてゐる。斯くして見れば混凝土の厚さを



増し鐵筋を充分に入れる場合と何れがいか判らなくなる。又基礎土を入れ換へる方法も考へられる。だが相當遠

くから馬力で運搬することは、比較にならない位高いものになつてしまふから、今やつて居る工法は適當なものだとも云へる。

阿蘇山ド山イラフイウイニイ
街渠、及び側溝に松杭を打つと云ふことに於て、其の杭がどれだけの働をするものか判らないが、若し之れが無かつたら、夫れ等は随分沈下することだらう。波の様になつてしまつて街路の體裁は全く破壊されてしまふだらうと思はれる。只L型の街渠であるが、

之れをL型のものにする以上は杭は確かに入用だが、若し歩車道の境界石のみにして底盤部を除いて此處に舗装面を延長して持つて來たら或は其處の杭は節約出来るかも知れない。又混凝土の

舗装をする場合に浅い混凝土の横斷暗渠が澤山にある。其の部分と、割栗基礎の部分との間には必ず目地を入れなければいけない。若し一緒に混凝土を打つたらきつと其の境には龜裂が入るだらう。

此の位なことは私にも云へ様が、此處の工事を見て居た時間は半日である。斯かる特殊な地盤を持つ處の構造に就ては實際私は批判することは出来ないと思つた。そして又私は斯かる處は、もつとも研究して見たいと思つたことだ

佐賀市内の現在の國道はほんとうに狭い。僅かに一臺の自動車が生じて通れる程だ。だから藁など積んだ自動車などは沿線の人家の屋根の瓦をよく落すさうだ。餘りに度々落すので今では一枚落すと一圓宛の賠償金を出すことに決まつて居るとのことだ。初めは五十錢だつたのが此の頃は一圓になりましてと運轉手が云つて居た。處で瓦一枚に一圓貰へれば實際の處落して貰つた方がいゝのだから道路沿ひの瓦はどれを見ても僅かに載せてあるきりだ。運轉手が『えゝ風が吹いても落ちる様にしてありますよ。』と笑つ

て居た。

狭いのは佐賀市内ばかりでない。佐賀縣内の國道は殆んど八分通りは迂曲した一車線幅の道だ。佐賀縣の國道は何處を置いても改修しなければならぬ程だ。又縣の人達の國道を改良せんとする熱意は實際涙の出る程眞劬だつた。こんどの國直轄の國道工事をもどんなにか喜んで居ることだらう。ほんとうに縣土木課の人達は此の工事には如何なる盡力をも辭せない程の熱意を見せてゐた。

藁と云へば神崎町佐賀市間のあたりは非常に藁細工が盛んな様に見えた。そして繩などは機械綯だらうが、其の藁を打つ手間を節する爲めに國道の道路敷に一面に藁を敷いてあつた。自動車が其の上を通ることに依つて藁打ちの代用にするのだ。適當に打てるものかどうか知らないがうまいことを考へたものだと思ふ。

阿蘇山のドライブウェイ

私は阿蘇山がとても好きだ。もう五度も登つてゐる。あ

の力。噴煙の偉大さ。このお山に登る毎に私はあの測り知れざる偉大なる力に打たれる。あの地中にこもつた大きな力。何處かに噴き出さずには居られないと云ふ様な強い意志ある其の力に打たれる毎に、何時も私は強くなれ。強くなれと勵まされる様な氣がする。私は此の人生の激しい行路に疲れた時には何時もこのお山に登ほることにしてゐる。そして何時も『お前もつと奮るゝ立たなければいけない。俺の力を見ないか。』と云ひ聞かされる様な氣がする。

最近阿蘇山にドライブウエイが完成したと聞ひてゐた。此の度九州に行つた時に私は此の道路を見に、又阿蘇山の力を得に登つた。此のドライブウエイは坊中町から阿蘇山上神社前に到る間に美事に出来てゐた。私の行つた時には雪が降つて居た。幅員は七米程で其の敷砂利は眞赤な噴出岩の碎石なので、雪の白と碎石の赤と相映じて荒膜たる起伏のある山々の冬景色の間を縫ふ道路はほんとうに美術品の様な氣がした。此の道路を美しいパスが通つて居た。線形も勾配も上手に採つてあつた。最急勾配は1/13だとのこ

とだつた。

此の道路の通り初めは一昨年十一月廿六日に畏くも熊本に於ける陸軍大演習の統監に此の地に御出駕になつた

今上陛下であらせられたと聞ひた。

英邁なる吾が陛下と世界一の大噴火口との當時の對立を想起してそゞろに私は其の偉大さに打たれた。ほんとうに此の道路の幸を想ふたことだつた。

此の道路が出来たために今まで之れに登るのに一日の行程だつたものだが、二三時間の行程になつた。便利になつたものだ。阿蘇山は國立公園に指定されたと云ふが、ほんとうに公園の感じだ。私も熊本から大分へ行く途中登るところが出来たのである。此の二三目新聞では阿蘇山は大變な爆發をしてゐると報じてゐる。大きな溶岩を噴き上げるので登山者は阿蘇山上神社から上は登らせないと書いてあつた。又附近の住民は避難してゐる者もあると報じてゐる。おゝ大阿蘇よ。